

物性グループ事務局報

2011 (H23) . 3. 31

目次

巻頭言	2
「東北地方太平洋沖地震大震災の対策」	4
共同利用研究所委員推薦選挙結果	5
拡大物性委員会 (2010. 3. 20) 報告	10
拡大物性幹事会 (2010. 5. 14) 報告	13
物性幹事会 (2010. 8. 21) 報告	14
拡大物性委員会 (2010. 9. 23) 報告	16
物性委員会規約 (2007. 9. 22 改正)	20
共同利用委員推薦に関する申し合わせ事項 (2007. 9. 22 承認)	23
新会員 (2009 年 10 月以降登録)	24
物性委員名簿 (2011 年 2 月現在)	26
グループへの新規加入・更新について	27
名簿情報新規登録・更新方法	27

物性委員会事務局は、東京工業大学物性物理学専攻が、平成 21 年 10 月、東北大学から引き継ぎました。事務局は、西田信彦（委員長）、西森秀稔（事務局長）、大熊哲、古賀昌久（事務局員）で、物性委員会規約に従って運営にあたっています。「物性グループ」は、数人から数十人の物性研究者からなる約 200 のグループが集まり、それぞれのグループが、構成人数によって決まる数だけ、グループ代表として物性委員を選出、物性委員会を構成、日本の物性研究を発展させるために集まった団体です。物性研究を活発に行っている研究者が多数所属しています。任期の間、よろしく協力をお願いいたします。

現在、世は大きな変革の時期を迎えており、科学研究についても、「科学技術立国」日本の考え方が重要であるとの認識はありながら、社会での位置づけが問い直されています。昨年の「事業仕分け」においては、種々の科学研究計画、科学研究費また大学の運営交付金が、取り上げられました。科学技術研究評価は、専門家による現状分析と長期的将来展望に基づき行われるのがふさわしいと思います。そのとき、異研究分野間の情報交換と評価、他流試合的な交流が十分なされていることが重要であると痛感しました。

物性研究は、基礎科学から応用まで広い分野を対象とし、科学研究の中で重要な位置を占め、研究者数がもっとも多い研究分野です。研究分野が広いので、磁性、半導体、超伝導、結晶、表面、誘電体、液晶等の研究分野ごとの学協会、また、放射光やレーザー、中性子、ミュオン、電子線等の研究手段を中心に考える学協会が組織され、各コミュニティが物性研究の各学問分野の現状を分析して、将来と後継者養成について計画を立てています。大学は、最先端の基礎研究と後継者養成を重要な任務としています。素粒子原子核研究分野は、原子核談話会等を作り、研究者全体で日本の素粒子や原子核研究の将来のあり方を議論し、その方針を決めています。物性研究分野は、その研究の多様性から全体としての方針は簡単にまとめられるものではありませんが、各研究分野横断の情報交換が、現在、とくに重要になっていると思います。物性委員会は、この目的のための最もふさわしい唯一の場と考えられます。事務局として、他流試合の情報交換の場を作るようにしたいと思います。

平成 16 年国立大学法人化により、個々の大学の裁量権は増したが、競争原理も重視され、大学における研究のやり方、研究の質も影響を受けています。大学共同利用研究所もそのあり方を、考える時期であると思います。東京大学の物性研究所、京都大学の基礎物理学研究所は、日本における物性研究にとって重要な全国共同利用研究所ですが、その運営および人事に携わる委員を推薦する選挙母体が、物性グループであり、物性委員会の重要な任務です。選挙で各研究所の運営委員や人事委員等が物性グループ代表の約 200 名の物性委員によって選ばれます。投票率は約 50%です。100 人の物性委員、従って約 100 グループの意見を反映した形で、委員が選ばれています。研究分野によっては人数の少ない研究分野もあり、呼びかけて会員をさら増やす努力にご協力をお願いしま

す。

物性研究は、放射光、中性子、ミュオン等の日本全体、また国際的に使われる大型施設、強磁場、スーパーコンピューター等の日本に数か所ある中型施設を用いる研究、極低温実験、高圧実験等の大学研究所で用いる小型施設で行う研究、大学、研究所の個々の研究所で行われる研究、これらが重層的、有機的結合して行われて、大きな成果が出ると考えられます。10年前の平成12年、日本学術会議にまだ物理学研究連絡委員会があったとき、物性物理専門委員会が、「物性研究拠点整備計画の具体化に向けて」との意見書を作製しており、物性グループのホームページに載っています。国立大学法人化があり、また、物性研究の動向も大きく変化しているので、再検討が必要と思います。物性研究の異なる分野間の情報交換の際にこの観点からの議題も取り上げてゆきたいと思っています。

また、物性研究発表の場として大変重要な JPSJ と PTP の運営の統合が日本物理学会で決まりました。JPSJ は、日本の物性研究にとって非常に重要な歴史ある雑誌であり、多くの人々の努力で現在の地位を築いてきたものです。物性委員会は、JPSJ の強化・発展に協力してゆきたいと考えます。

現在、日本における物性研究について、その社会でのあり方、それを行う大学、研究所のあり方、研究発表を行う日本の学術誌どれもが再検討を要求されています。専門知識を持った研究者の現状認識と長期的将来展望が十分になされて、実行すべき問題です。物性の高度の知識をもった広い分野の研究者が一同に会している組織は物性委員会の他にはなく、自由な交流の場を作ることが出来ると考えられます。現事務局一同は、今まで、物性委員会運営に携わった経験のない者の集まりであります。幹事の方々をはじめとし、物性委員の積極的な協力をお願いしたいと思います。

平成 23 年 3 月 11 日、東北地方を中心とする地方を大地震が襲い、大津波が発生、現在、日本は、未曾有の国難に遭遇しています。死者行方不明者は、3 月 29 日現在、2 万 8 千人以上にのぼります。被害にあわれた方々には、心からのお見舞いを申し上げます。まだ、災害は続いています。福島第 1 原子力発電所は大被害を受け、その鎮静化のために、日本の総力をあげての努力がなされています。

東北地方の大学、研究所は、大きな被害を受け、また、福島原子力発電所が破壊され、電力不足による計画停電により、東北地方のみならず、東日本の大学研究所の教育・研究は、これから大きな困難を克服する必要があります。

物性グループ事務局は、3 月 13 日に「震災被災地の研究者、日本に来訪の研究者の安否、および、大学・研究所の被害状況の情報を把握する活動を開始しました。これらの情報を物性研究者で共有することは、これからの復興に有効であり、物性グループの集まりの趣旨に合致するものと考え、専用ホームページを立ち上げ、地震直後からの情報を集めて公開する活動を行いました。これから詳しい状況は徐々に明らかになると思いますが、KEK の PF、東海村の J-PARC、東北大学、大きな被害の情報が寄せられています。

物性研究は、大きな施設の研究、各大学規模の研究、各個人研究室の研究が有機的、重層的に関連してなされます。大きな研究所の大型物性研究施設、大学で物性研究を行う個々の研究室の復興について、物性グループとしてどのように対処するかの検討を、幹事会を中心に行いたいと思います。（1）被害大学研究室の研究・教育への物性コミュニティとしての支援、（2）大型物性研究施設 KEK-PF、J-PARC 中性子・ミュオン施設の被害に対する物性コミュニティとしての対処、が議題となります。特に、大きな被害を受けた大学研究室では、大学院生の教育、任期に期限のあるポスドクの研究は、すぐにも問題になり、物性コミュニティ全体で考える問題であると考えます。可能なかぎり早急に幹事会を開き、対策を考える予定です。物性委員をはじめとする、物性グループ会員の方の創意ある提案をお願いいたします。

共同利用研究所委員推薦選挙結果

(1) 東京大学物性研究所人事選考協議会委員(任期：H23. 4. 1-H25. 3. 31)

日時:2010. 8. 21

場所: 東工大 田町キャンパス内キャンパス・イノベーションセンター 多目的室 1

幹事会にて、幹事 12 名および委員長と事務局長を加えた計 14 名により、物性物理分野 2 名、物理化学分野 0 名の推薦者選出投票を行った。以下、最終投票結果である。

- ・物性物理分野（当選）

齋藤 晋（東工大理）	7 票（理論分野の同点者として抽選）
村上 洋一（KEK）	6 票（実験分野第 1 位）

(2) 京都大学基礎物理学研究所 運営委員会委員(任期：H23. 8. 1-H25. 7. 31)

ノミネーション期間 2010. 7. 1-7. 17

投票期間 2010. 8. 4-8. 31

有権者 219、投票総数 98 (投票率 44. 7%)

7 名以内で投票(郵送)

開票 2010. 9. 14

物性グループより推薦

- | | |
|--------------|----------|
| 川上 則雄（京大理） | 53 票 |
| 上田 和夫（東大物性研） | 52 票 |
| 栗原 進（早大理工） | 45 票(*1) |
| 田崎 晴明（学習院大理） | 45 票(*1) |

補欠候補者

- | | |
|-------------|-----------|
| 青木 秀夫（東大院理） | 45 票 (*1) |
| 川勝 年洋（東北大理） | 43 票 |
| 播磨 尚朝（神戸大理） | 42 票(*2) |

(次点)

- | | |
|-------------|-----------|
| 西森 秀稔（東工大理） | 42 票 (*2) |
|-------------|-----------|

*1 同点者があったため、同一大学（東大）からの複数選出を避けて栗原氏、田崎氏を選出。

*2 同点者があったため、地域バランスを考慮し播磨氏を補欠候補者とした。

(3) 京都大学基礎物理学研究所 共同利用運営委員会委員(任期：H23. 1. 1-H24. 12. 31)

ノミネーション期間 2010. 7. 1-7. 17

投票期間 2010. 8. 4-8. 31

有権者 219、投票総数 98 (投票率 44. 7%)

7名以内で投票(郵送)

開票 2010.9.14

物性グループより推薦

紺谷 浩 (名大理)	48 票
小口多美夫 (阪大産研)	42 票
斎藤理一郎 (東北大院理)	41 票
楠瀬 博明 (愛媛大)	40 票 (*1)

補欠候補者

坂井 徹 (原子力機構)	40 票 (*1)
今田 正俊 (東大院工)	35 票
村上 修一 (東工大理)	35 票

(次点)

古崎 昭 (理研)	34 票
黒木 和彦 (電通大)	34 票
田仲由喜夫 (名大院工)	34 票

*1 同点者があつたため、地方大学の特性を考慮し楠瀬氏を推薦。

(4) 東京大学物性研究所 共同利用施設専門委員会委員(任期: H23. 4. 1-H25. 3. 31)

ノミネーション期間 2010. 7. 1-7. 17

投票期間 2010. 8. 4-8. 31

有権者 219、投票総数 98 (投票率 44. 7%)

物性物理分野 7名+物性化学分野 2名以内で投票(郵送)

開票 2010. 9. 14

【物性物理分野】

物性グループより推薦

高島 敏郎 (広大院先端)	46 票
前野 悦輝 (京大理)	44 票
有馬 孝尚 (東北大多元研)	41 票
村田 恵三 (大阪市大)	37 票
紺谷 浩 (名大理)	36 票
後藤 輝孝 (新潟理)	36 票
堀田 貴嗣 (首都大理)	32 票

(次点)

高橋 隆（東北大理） 32 票（* 同一部局のため除外）

【物理化学分野】

物性グループより推薦

加藤 礼三（理研） 28 票

川勝 年洋（東北大理） 22 票

（次点）

高橋 利宏（学習院） 20 票

野原 実（岡山大理） 20 票

各種推薦委員選挙結果履歴(敬称略)

1. 物性委員会幹事(任期3年, 物性委員会交代年の8月に選挙)

H21.10-24.9 安藤、家、岩佐、上田(和)、大貫、小形、奥田、川上、倉本、佐宗、佐藤(英)、高
畠、田島、西田、西森、早川、播磨、藤森、松田、三宅、村上、村田

H18.10-21.9 佐藤(正)、高畠、後藤、北岡、大貫、巨海、三宅、秋光、前川、上田(和)、福山、
前野、矢ヶ崎、坪田、鈴木、宮下、小田垣、高橋(隆)、押山、川上

2. 物性研人事選考協議会委員(任期2年, 1年ごとに3名と2名が交代, 委員推薦時期8月中旬)

H23.4-25.3 斎藤、村上

H22.4-24.3 倉本、山田(和)、吉村

H21.4-23.3 佐藤(英)、川村

H20.4-22.3 川上、高木、加藤

H19.4-21.3 三宅、高畠

H18.4-20.3 後藤、村上、西森

H17.4-19.3 永長、北岡

H16.4-18.3 鹿児島、川上、中村

H15.4-17.3 佐藤(正)、安藤

H14.4-16.3 大貫、倉本、水崎

H13.4-15.3 前川、十倉

H12.4-14.3 菅、三宅、西田

H11.4-13.3 山田(耕)、遠藤

H11.4-12.3 前川

H10.4-12.3 張、本河、福山

H9.4-11.3 斯波、小林

H8.4-10.3 川村、石黒、藤田

3. 物性研協議会委員(* H20以降 日本学術会議が推薦)

(* H22.9-24.8 野尻、腰原、太田、野上、曾根、尾嶋)

(* H20.9-22.8 福山(寛)、野村、岩佐、岡部、中嶋)

H18.9-20.8 熊谷、宮島、宮下、中村、前野、金子

H16.9-18.8 倉本、北岡、青木、鈴木、佐藤(英)

H14.9-16.8 前川、佐藤(正)、西田、大貫、高畠

H12.9-14.8 巨海、佐藤(正)、西田、三宅、山田(耕)

H11.3-12.8 鈴木(治)

H11.1-12.8 菅

H10.9-12.8 遠藤、斯波、張、

H8.9-10.8 遠藤、斯波、小林、藤田、秋光

4. 物性研共同利用施設専門委員会

(任期2年, 1年ごとに8名と7名が交代, 委員推薦時期8月中旬)

- H23. 4-25. 3 高畠、前野、有馬、村田、紺谷、後藤、堀田、加藤、川勝
- H22. 4-24. 3 伊土、関根、佐宗、奥田、石川、松田、小林、鈴木(孝)、細越
- H21. 4-23. 3 田島、村田、繁岡、村上、世良、小口、武田、鹿野田、金谷
- H20. 4-22. 3 網塚、岩佐(義)、田中、野尻、福山、後藤、石田、白濱、吉村
- H19. 4-21. 3 高畠、前野、巨海、和田、鈴木(孝)、野末、天児
- H18. 4-20. 3 繁岡、宇田川、和田、村田、田島、松田、石田、高橋
- H17. 4-19. 3 仲間、高畑、巨海、吉村、山田(和)、前野、熊谷
- H16. 4-18. 3 高野、後藤、小口、石川、野尻、村田、和田、大貫
- H15. 4-17. 3 野末、北岡、赤井、前野、高橋(隆)、水貝、奥田
- H14-4-16. 3 高畠、山田(和)、岩佐、太田、巨海、畑、谷口、樽茶
- H13. 4-15. 3 熊谷、佐藤(英)、酒井、後藤、宇田川、矢ヶ崎、高柳
- H12. 4-14. 3 村山、三宅、佐藤(正)、大貫、北岡、鈴木、網代、水崎
- H11. 4-13. 3 太田、前川、巨海、倉本、前野、大門、高畠
- H10. 4-12. 3 高橋(隆)、嶽山、山田(和)、山田(耕)、田中(耕)、城、川上(正)、栗原(進)
- H9. 4-11. 3 栗田、水崎、佐藤(正)、三宅、北岡、伊藤、藤田
- H8. 4-10. 3 遠藤、倉本、斯波、梶田、鈴木、菅、大貫、宮下

5. 京都大学基研運営委員 (任期2年, 4名, 連続3選は禁止)

- 2011. 8-2013. 7 川上、上田(和)、栗原、田崎
- 2009. 8-2011. 7 上田、鈴木、斉藤、坪田
- 2007. 8-2009. 7 倉本、川上、川村、宮下
- 2005. 8-2007. 7 三宅、福山、前川、倉本
- 2003. 8-2005. 7 福山、斯波、三宅、前川
- 2001. 8-2003. 7 山田(耕)、安藤、斯波、倉本
- 1999. 8-2001. 7 山田(耕)、安藤、倉本、張
- 1997. 8-1999. 7 斯波、福山、鈴木(増)、興地
- 1995. 8-1997. 7 斯波、川村、鈴木(増)、興地
- 1993. 8-1995. 7 山田(耕)、安藤、福山、川村

6. 京都大学基研共同利用委員

(任期2年, 4名, 京都大学基礎物理学研究所運営委員に選出された者は除く)

- 2011. 1-2012. 12 紺谷、小口、斎藤(理)、楠瀬
- 2009. 1-2010. 12 紺谷、石原(純)、上羽、西森
- 2006. 12-2008. 11 赤井、山下、永長、平島
- 2005. 4-2006. 12 本田、三宅、赤井、川村

拡大物性委員会(物理学会インフォーマルミーティング)

2010年3月20日(土)18:00 - 20:00

岡山大学 GF 会場

[出席者(敬称略、50音順)]

新井(J-PARC), 家(物性研), 池田(KEK), 池田(J-PARC センター(JAEA)), 上田(物性研), 宇田川(広島大), 加倉井(JAEA(原子力機構)), 加藤(理研), 金道(物性研), 倉本(東北大), 小林(岡山大), 小林(名大理), 小森(物性研), 榊原(物性研), 佐藤(首都大), 柴山(物性研), 下村(KEK), 下村(KEK 物構研), 社本(JAEA(原子力機構)), 杉本(中央大理工), 杉山(阪大院理), 高畠(広島大), 瀧川(物性研), 遠山(京大基研), 早川(京大基研), 播磨(神戸大), 福山(東理大), 堀田(首都大), 前野(京大院理), 水谷(北陸先端大), 三宅(阪大基礎工), 三宅(KEK), 村上(KEK 物構研), 村田(大阪市大)

事務局 西田(東工大), 西森(東工大), 古賀(東工大), 大熊(東工大)

計 38 名

配布資料:

- ・ 学術会議シンポジウム「物性物理学・一般物理学分野の大型施設の現状と将来」
- ・ 物性研報告
- ・ J-PARC の状況
- ・ 東大物性研中性子科学研究施設ロードマップ(平成22年度)
- ・ KEK・物質構造科学研究所 拡大物性委員会報告
- ・ 高エネ機構物構 ミュオン科学研究施設報告
- ・ 京大基礎物理学研究所報告
- ・ 第86回通常総会資料
- ・ PTP 統合問題に関する報告書
- ・ PTP の刊行移行に関するアンケート(2010/03/16案)
- ・ 拡大物性委員会 進行メモ

報告

1. 会計監査報告

- ・ 前野悦輝氏(京大)より会計監査報告があり, 承認される。

2. 物性グループ事務局報告(東工大に引継ぎ以降)

- ・ ホームページ移転
- ・ 入退会状況
- ・ 会計(振込手数料事務局負担の件, 承認される)
- ・ 拡大物性委員会開催日程の確認, 次回(大阪府立大)も物理学会初日に開催。
ただし, 総会が開催される年次大会では日時が重ならないように配慮する。

自由討論

1. 物性研究の現状と将来についての話題提供と議論

1) 学術会議の最近の活動他（物性研・家泰弘所長）

- ・ 物理学分野の展望（「日本の展望」）および大型計画の説明
- ・ 学術会議シンポジウム「物性物理学・一般物理学分野の大型施設の現状と将来」の報告
- ・ 全国共同利用・共同研究拠点に関する説明：特に物性分野と関わりの深い研究拠点について

（質問）研究拠点になるメリットは？

—（家）概算要求時に多少有利に働くこともある。

- ・ 国立大学共同利用・共同研究拠点協議会公開シンポジウムの案内（平成 22 年 4 月 3 日開催予定）

（質問）学術会議の活動と各研究コミュニティ間の意見交換の方法は？

—（家）難しい問題。物理学会のホームページも利用して欲しい。物性委員会の存在は重要。

2) J-PARC の運営形態（J-PARC・池田裕二郎副センター長）

- ・ J-PARC 運営会議および J-PARC センターの構成・役割・運営体制の説明
- ・ KEK と原子力機構との関係について

3) 東大物性研中性子科学研究施設の現状と将来（物性研・柴山充弘中性子施設長）

- ・ 中性子施設の沿革・ミッション・共同利用装置・利用状況・成果の説明と報告
- ・ 中性子施設が目指すサイエンスおよびロードマップ・他機関との連携・研究者の育成と広報（同施設のホームページを参照して欲しいとのこと）

4) 物構研の現状と将来計画（物構研・下村理所長）

- ・ 放射光利用者によるノーベル化学賞受賞報告
- ・ μ SR を用いた最近の成果、および超低速ミュオンビーム施設の概要説明
- ・ 中性子装置建設計画基本案
- ・ 構造物性研究センターの組織、コンパクト ERL および KEK-X プロジェクトの概要
- ・ 放射光関連、強テラヘルツ光研究の今後 20 年間にわたるロードマップ
- ・ 大学との連携、教育

2. JPSJ と PTP の統合問題（上田和夫物理系学術誌刊行センター長）

- ・ 両誌統合の経緯の説明と今後の予定
- ・ 同日開催された総会における「第 8 号議案：統合の承認」の報告（瀧川仁刊行委員長）
—本議案には不明確な点があるとの指摘
- ・ 5 月に予定されている物理学会員に対するアンケート（配布資料）をもとに意見交換

--雑誌名の変更が及ぼすリスクについての議論

インパクトファクターが継承されないこと、および各研究機関の購読中止に対する危
惧

-- 'Japan' を残すか？

これまでの継続性を重視する物性分野と、新たなものを作ろうとする素核分野とで
は考え方が異なるだろう。

--物性コミュニティの意見を反映させるには物性委員会が重要

- ・ アンケートの締め切り(6月頃を予定)前の5月中旬または下旬に物性幹事会を開催し、物
性コミュニティとしての意見を集約させることを決定

以上

拡大物性幹事会委員会

2010年5月14日(金)15:00 - 17:00

東工大蔵前会館小会議室

[出席者(敬称略、50音順)]

安藤(東工大), 冢(物性研), 上田(物性研), 大貫(阪大), 川畑(物理学会), 倉本(東北大), 河野(理研), 佐藤(首都大), 瀧川(物性研), 早川(京大基研), 播磨(神戸大), 村田(大阪市大)

事務局 西田(東工大), 西森(東工大), 大熊(東工大)

計15名

議題: 学術誌再編問題に関する物理学会会員アンケートへの物性グループとしての姿勢。

議事:

瀧川氏(物理学会刊行委員長)からアンケートを実施するに至った経緯や背景について説明を受けたのち, 西田物性委員長の司会のもとに議論を行い, 拡大幹事会として下記のメッセージを物性委員会委員に送付してアンケート回答の参考としてもらうこととした。

「JPSJ誌は長い伝統と実績を持つ雑誌であり, JPSJ誌の継続は, 投稿のさらなる促進や内外の図書館での機関講読の維持発展にとって極めて重要である。今回の学術誌再編に際しては JPSJ 誌の継続性を重視し, JPSJ の名称を変更しないよう希望する。」

物性委員会幹事会

2010年8月21日(土) 13:30 - 15:30

東工大 田町キャンパス内 キャンパス・イノベーションセンター2F 多目的室1

[出席者(敬称略、50音順)]

家(物性研), 岩佐(東大), 上田(物性研), 川上(京大), 倉本(東北大), 佐宗(埼玉大), 高島(広
大), 田島(阪大), 早川(京大基研), 播磨(神戸大), 村上(高エネ研), 村田(大阪市大)

事務局 西田(東工大), 西森(東工大), 古賀(東工大), 大熊(東工大)

計16名

配布資料

- 1) 東大物性研からの物性研人事選考協議会委員の推薦依頼状および現在の委員リスト
- 2) 各種推薦委員選挙結果履歴(物性研人事選考協議会委員, 物性研協議会委員, 物性研共同利
用施設専門委員会委員, 京大基研運営委員)

議題

1. 「東大物性研人事選考協議会委員」(2名)の推薦のための投票
2. その他

議事

1. 投票に先立ち, 以下の事項を確認
 - 1) 佐藤英行, 川村光委員(任期 H21.4.1~H23.3.31)の後任委員の選出で, 任期は H23.4.1~
H25.3.31 あること
 - 2) 両委員の専門はそれぞれ実験, 理論であり, 研究分野は共に(物理化学ではなく)物性物理
学分野であること
 - 3) 選出される委員は, 自身の専門分野だけでなく物性全分野にわたる視野を持ち, 出来れば年
齢は64歳(東大の定年)を越えないこと
 - 4) 配布資料のリストに記載の各種委員との重任を避けること
2. 前回の選挙に習い, まず候補者のノミネーションを行った.
その結果, 理論分野7名, 実験分野10名の名前があがった.
3. ノミネーション結果を踏まえ投票を実施
14名による投票, 無記名で2名(理論・実験各1名)を連記
 - 1) 第1回投票の結果, 2票以上を得票した7名(理論3名, 実験4名)を候補者とし, 第2回
投票を実施
 - 2) 第2回投票の結果, 実験分野は6票を獲得し1位となった村上洋一氏(高エネ研)を選出. 理
論は1位が2名となったため, この2名について第3回投票を実施
 - 3) 第3回, 第4回投票とも2名の得票数が同数(7票)であったため, 抽選により斎藤晋氏(東
工大)を選出

- 4) 村上洋一氏は席上で委員推薦を受諾，斎藤晋氏については後日事務局より確認をとることとした
4. JPSJ と PTP の統合問題に関する意見交換
- ・ JPSJ は現状とは大きく変わらず，PTP は Progress of (または in) Theoretical and Experimental Physics に名称を変更予定．“SCOAP3” (Sponsoring Consortium for Open Access Publishing) を検討中とのこと
 - ・ 投稿料無料化の是非について意見交換
 - ・ 若手を呼び込む方策について → 物性委員会からのアピールが重要
 - ・ PTP の刊行体制が一般会員から見えにくい
5. 次回物理学会 (9 月 23 日，大阪府立大) における拡大物性委員会での議題の募集
- ・ 学術会議の最近の活動，大型研究の将来計画，物性関連の各分野間の横断的コミュニケーション (物性研・家所長)
 - ・ H25 年度から予定されている科研費細目表の改訂について (高エネ研・村上氏)
 - ・ 選挙結果報告 (事務局より)，JPSJ アンケートの結果報告 (瀧川氏に依頼済) に加え，上記 2 つの話題を取り上げる
6. 物理学会拡大物性委員会の開催日時について
- 年次大会 (通常は春) では初日の夕方に総会が開催されるため，拡大物性委員会は 2 日目の夕方にずらす．分科会 (通常は秋) は従来どおり初日の夕方開催とする
7. 物性研人事協議会委員選挙の簡略化の提案
- 今回のように，選挙だけのために幹事会を開催する必要があるか？ (事務局より)
- 規則では必ずしも会議が必要という訳ではない，今後検討する (物性研・上田氏)
8. 繰越金の扱いについて
- 事務局より，現在多額の繰越金 (200 万円以上) を引き継いでいるため，例えば会費の値下げなどにより会員への還元をしたい旨の提案がなされた
- 反対意見なし；9 月の拡大物性委員会に諮る

以上

拡大物性委員会(物理学会インフォーマルミーティング)

2010年9月23日(木) 18:00 - 20:00

大阪府立大学 WH 会場

[出席者(敬称略、50音順)]

秋光(青学大理工), 新井(JAEA), 家(東大物性研), 石川(富山大理), 岩佐(東大工), 上田(東大物性研), 宇田川(広大総合), 浴野(広大総合), 小形(東大理), 加倉井(原子力機構), 金道(東大物性研), 倉本(東北大理), 後藤(新潟大理), 河野(理研), 小林(岡山大理), 佐藤(首都大理), 鈴木(名古屋大理), 瀬戸(KEK 物構研), 高橋(学習院大理), 高畠(広大先端), 瀧川(東大物性研), 田島(大阪大理), 田村(富山大薬), 出口(お茶大理), 遠山(京大基研), 鳥養(山梨大医工), 野尻(東北大金研), 早川(京大基研), 播磨(神戸大理), 藤井(総合科学研究機構), 藤森(東大理), 細越(大阪府大), 三宅(阪大基礎工), 村上(高エネ機構), 村田(大阪市大理), 村山(室蘭工大)
事務局: 西田(東工大理), 西森(東工大理), 古賀(東工大理), 大熊(東工大極低温セ)
計 40 名

配布資料:

- ・ 学術会議シンポジウム「物性物理学・一般物理学分野の大型施設の現状と将来」
- ・ 物性研報告
- ・ 中間子科学研究会案内
- ・ 高エネルギー加速器研究機構・物質構造科学研究所報告
- ・ 東工大物理 GCOE「ナノサイエンスを拓く量子物理学」会議案内
- ・ 提言「学術の大型施設計画・大規模研究計画」
- ・ J-PARC 物質生命科学実験施設(MLF)の状況
- ・ J-PARC MLF Status
- ・ 京大基礎物理学研究所報告
- ・ 拡大物性委員会 進行メモ

報告

西森事務局長より以下の報告が行われた。

3. 入退会状況および会計報告

H22/9/15 現在 グループ数 181 委員数 216 名 メンバー数 1114 名

4. 拡大物性幹事会の報告(5月24日および8月21日開催)

5月24日開催幹事会:

- ・ 学術誌再編問題に関する物理学会会員に対するアンケートに際し、物性グループとしての姿勢を議論。
- ・ 上記の議論を踏まえ、拡大幹事会としてのメッセージを発表。物性委員会委員に送付してアンケート回答時の参考にしてもらう。

8月21日開催幹事会：

- ・ JPSJ と PTP の統合問題に関する意見交換。
- ・ 物理学会での拡大物性委員会の開催日時について議論。年次大会（通常は春）では総会と重ならないよう2日目の夕方にくずらす。分科会（通常は秋）は従来どおり初日の夕方開催とする。
- ・ 物性研人事選考協議会委員選挙の簡略化の提案（選挙だけのために集まる必要性はないのでは？）
- ・ 繰越金の扱いについて事務局より提案：相当額の繰越金を引き継いでいるため、例えば会費の値下げなどにより会員への還元をしたい。反対意見なし。9月の拡大物性委員会に諮る。
- ・ 物性研人事選考協議会委員（2名）の推薦のための投票の実施。
その結果、村上洋一氏（高エネ機構）と斎藤晋氏（東工大理）が選出された。
（その後、お2人から推薦受諾の回答を得た）

5. 東大物性研および京大基研各種委員選挙開票結果の報告

京大基研	運営協議会， 共同利用運営委員会
東大物性研	共同利用施設専門委員会
ノミネーション期間	2010年7月1日より7月17日まで
投票期間	2010年8月4日より8月31日まで
有権者数	219
	投票総数 98（投票率 45%）
開票	2010年9月1日（8月31日までに到着分）および9月14日（その後の到着分）

基研運営協議会（幹事会承認事項）

物性グループより推薦

川上 則雄（京大理）	53 票
上田 和夫（東大物性研）	52 票
栗原 進（早大理工）	45 票(*1)
田崎 晴明（学習院大理）	45 票(*1)

補欠候補者

青木 秀夫（東大院理）	45 票(*1)
川勝 年洋（東北大理）	43 票
播磨 尚朝（神戸大理）	42 票(*2)

(次点)

西森 秀稔（東工大理）	42 票(*2)
-------------	----------

*1 同点者があつたため、同一大学（東大）からの複数選出を避けて栗原氏，田崎氏を選出。

*2 同点者があつたため、地域バランスを考慮し播磨氏を補欠候補者とした。

基研共同利用運営委員会

物性グループより推薦

紺谷 浩 (名大理)	48 票
小口多美夫 (阪大産研)	42 票
斎藤理一郎 (東北大院理)	41 票
楠瀬 博明 (愛媛大)	40 票(*1)

補欠候補者

坂井 徹 (原子力機構)	40 票(*1)
今田 正俊 (東大院工)	35 票
村上 修一 (東工大理)	35 票

(次点)

古崎 昭 (理研)	34 票
黒木 和彦 (電通大)	34 票
田仲由喜夫 (名大院工)	34 票

*1 同点者があつたため、地方大学の特性を考慮し楠瀬氏を推薦。

物性研共同利用施設専門委員会

【物性物理分野】

物性グループより推薦

高島 敏郎 (広大院先端)	46 票
前野 悦輝 (京大理)	44 票
有馬 孝尚 (東北大多元研)	41 票
村田 恵三 (大阪市大)	37 票
紺谷 浩 (名大理)	36 票
後藤 輝孝 (新潟大理)	36 票
堀田 貴嗣 (首都大理)	32 票

(次点)

川上 則雄 (京大理)	30 票
藤 秀樹 (神戸大院理)	30 票

(参考)

高橋 隆 (東北大理)	32 票 (同一の委員会に推薦が決定した他候補と同一部局のため除外)
-------------	------------------------------------

【物理化学分野】

物性グループより推薦

加藤 礼三 (理研)	28 票
川勝 年洋 (東北大理)	22 票

(次点)

高橋 利宏 (学習院大理)	20 票
野原 実 (岡山大大理)	20 票

議事

2. 物性研および基研各種委員の推薦について（開票結果を受けての議論）
 - ・すべて報告のとおり承認された。
3. 会計および会費の変更（減額）について
 - ・会計は報告のとおり承認された。
 - ・会費の減額（次回の会員更新の際、本来の規定の半額とする）についても承認された。
4. 科研費「系・分野・分科・細目表」の見直しについて（物構研・学術システム研究センター 村上洋一）
 - ・村上氏より、最近の科研費の動向（配分状況、審査方法等）および25年度公募から予定されている「系・分野・分科・細目表」の改正について説明があり、意見交換を行った。
 - ・この件に関する意見は、すでに領域代表を通して送られている調査に返信する形で積極的に回答して欲しいとのこと。
5. 学術会議および学術分科会の最近の活動について（物性研 家泰弘）
 - ・家氏より、学術会議の最近の活動、最先端研究基盤事業の選定結果、大型計画のマスタープランの策定と今後の予定、平成23年度概算要求等について説明があり、意見交換を行った。
 - （意見）・物性分野は高エネルギーや宇宙分野と比べて、全体での議論の場がない。
 - ・拡大物性委員会は意見集約の場となり得るかもしれないが、一方で大型計画の順位付けを行うような場ではない。議論の場については、幹事会でも検討する。
6. PTPとJPSJの将来について（物性研 瀧川仁 物理学会担当理事）
 - ・瀧川氏より、これまでの経緯、アンケートの結果、新欧文誌刊行準備委員会からの提案、PTEP誌の今後の選択肢について説明があり、意見交換を行った。
 - （意見）・掲載料無料化、オープンアクセス化については理論と実験、研究分野によって意見が分かれる。
 - ・購読する機関の拡大が最大の課題。海外への宣伝、投稿料の低減、オープンセレクト化の拡大が重要。

以上

物性委員会規約

平成18年 3月27日制定

平成19年 9月22日改訂

第1章 総 則

(名 称)

第1条 本会の名称を物性委員会という。これは従来のも物性百人委員会を改称したもので、その事務局も任期までその任務を引き続き行う。

(事業所)

第2条 本会の事業所は事務局が所属する機関のある場所に置く。

第2章 目的及び事項

(目 的)

第3条 本会は、物性分野の研究の発展を目指して、その分野における各種の意見調整やそれに基づいた提言、さらには親睦を図ることを目的とする。

(事 項)

第4条 本会は、次の事項を行う。

- 一 全国の物性研究者間の連絡、意見交換の場を作り、必要ならば意見を集約し提言を行う。
- 二 日本学術会議の物性物理学・一般物理学分科会との密接な連絡を図る。
- 三 全国共同利用機関の各種委員の推薦等を、要請に応じて行う。
- 四 その他、物性分野の発展に寄与するための活動を行う。

第3章 会 員

(会員および物性グループ、拡大物性委員会)

第5条 本会の会員は、全国で物性分野の研究・教育に携わる者で構成する各グループの代表者である。本会の会員が属する研究グループ全体をまとめて物性グループと呼ぶ。

- 一 代表者の人数は各グループの構成員として登録した人数に応じて別に定める。
- 二 必要に応じて物性グループ員なら誰でも出席できる会議を設ける。これを拡大物性委員会と呼ぶ。

(会 費)

第6条 各グループはその構成員数に応じて会費を納入しなければならない。会費の納入は、原則として3年一度とし、金額はグループの構成員数に応じて別に定める。

(入会および退会)

第7条 会員として入会しようとするものは、委員長に申し込み、その承認を得なければならない。委員長は、会費を滞納した会員、または拡大物性委員会において理由を挙げて本会員として適当でないことと決議されたものを退会させることができる。

第4章 役員

(役員構成と事務局)

第8条 本会に、役員として委員長、事務局長、および事務局員若干名を置き、事務局を構成する。事務局は物性委員会と物性グループの活動に必要な事務を行う。

(役員選出と任期)

第9条

- 一 物性委員長と事務局長の候補は幹事会（第16条）が推薦し、拡大物性委員会で決定する。
- 二 事務局員は物性委員長と事務局長が決定する。
- 三 役員任期は、3年とする。

(委員長の職務)

第10条 委員長は本会を代表し、事務局構成員と協力して本会の運営を統括する。

(監査人)

第11条 本会に会計を監査する監査人2名を置く。監査人は事務局を構成する機関以外の構成員から選出する。

(監査人の任期)

第12条 監査人の任期は、3年とする。

(監査人の選出)

第13条 監査人の選出は、事務局交替直後の拡大物性委員会で行う。

第5章 幹事

(幹事構成と選出)

第14条 本会に幹事を置く。

- 一 幹事のうち2名は委員長、事務局長とする。
- 二 その他の幹事のうち2名は、前委員長、前事務局長とする。
- 三 上記以外の幹事として、18名を物性委員会の選挙により、会員あるいはそのグループの構成員から選出する。

(幹事任期)

第15条 任期は事務局の任期と同じ3年とする。

(幹事の職務と幹事会)

第16条 幹事は幹事会を構成し、委員長及び事務局と協力して本会の運営にあたる。幹事会には、必要に応じて日本物理学会領域委員会物性領域代表、日本学術会議の物性関係委員、およびその他の適任者をオブザーバーとして加えることができる。

第6章 経 理

(経 費)

第17条 本会の経費は各グループからの会費によって運営する。

(監査報告)

第18条 監査報告は、原則として事務局交替直後の拡大物性委員会において行う。

附 則

この規約は平成19年9月22日より施行する。

共同利用委員の推薦に関する申し合わせ事項

(2007(H19)年9月22日承認)

1. 東京大学物性研究所の人事選考協議会委員の推薦は、物性委員会幹事の投票によって行う。原則として得票数の多い順に推薦を行うが、物性委員会幹事会を招集して、物性物理分野と物理化学分野、理論と実験のバランスなどを議論したのち最終的な推薦順位を決定する。
2. 京都大学基礎物理学研究所の運営委員については、物性委員全体の投票に基づいて推薦を行う。得票数の順に推薦を行うことを原則とするが、分野のバランスなどを考慮して物性委員会幹事会が議論し、最終的な推薦順位を決定する。
3. 上記1と2以外の共同利用委員の推薦は、物性委員全体の投票に基づき、得票数の順に推薦を行う。
4. 上記2と3の投票に際して、物性委員会事務局は、あらかじめ候補者リストを全物性委員に周知する。リストの候補者数は、各共同利用委員への推薦人数の2倍以上とする（各共同利用委員推薦人数は、東京大学物性研究所共同利用施設専門委員：9名（隔年で、9名中1名あるいは2名を物理化学分野から選出）、京都大学基研運営委員：4名、京都大学基研共同利用委員：4名）。候補者の登録は、物性委員3名以上の賛同をもって事務局に通知することにより行われる。さらに各幹事は3名程度の候補者を登録することとする。また物性委員長は、必要に応じて分野のバランスも考慮し、候補者リストを補充することができる。物性委員は、投票に際して候補者リストを参考にしてよいが、これに限定されることなく投票できる。
5. 東京大学物性研究所人事選考協議会委員および京都大学基礎物理学研究所運営委員に推薦された者は、その他の共同利用委員を辞退することができる。その場合、その他の共同利用委員選挙で次点以降を繰り上げて各共同利用機関に推薦する。

新会員（2009(H21)年10月以降登録）

機関名	部局名	グループ名	連絡責任者	物性委員	メンバー
東京工業大学	理工学研究科	西森研究室	西森秀稔	西森秀稔	西森秀稔(統計力学) 高橋和孝(統計力学) 大関真之(統計力学)
東京工業大学	理工学研究科	半導体スピントロニクス	吉野淳二	吉野淳二	吉野淳二(半導体スピントロニクス)
東京工業大学	理工学研究科	物性理論	古賀昌久	古賀昌久	古賀昌久(物性理論)
東京工業大学	理工学研究科	物性実験 江間研	江間健司	江間健司	江間健司(ソフトマター) 佐々木裕司(ソフトマター)
東京工業大学	理工学研究科	物性理論	村上修一	村上修一	村上修一(物性理論)
東京工業大学	理工学研究科	量子電子輸送	藤澤利正	藤澤利正	藤澤利正(半導体物性)
東京工業大学	理工学研究科	物性理論	安藤恒也	安藤恒也	安藤恒也(物性理論)
東京工業大学	像情報工学研究所		宗片比呂夫	宗片比呂夫	宗片比呂夫
東京大学	物性研究所	物性理論	上田和夫	上田和夫 高田康民	上田和夫(物性理論) 高田康民(物性理論) 押川正毅(物性理論) 常次宏一(物性理論) 甲元真人(物性理論) 杉野 修(物性理論) 加藤岳生(物性理論) 川島直輝(物性理論) 野口博司(ソフトマター) 藤井達也(物性理論) 前橋英明(物性理論) 大久保潤(物性理論) 服部一匡(物性理論) 佐藤昌利(物性理論) 野口良史(物性理論) 内海裕洋(物性理論) 富田裕介(物性理論) 鈴木隆史(物性理論) 芝 隼人(ソフトマター)
東京大学	物性研究所	高分子物性	柴山充弘	柴山充弘	柴山充弘(高分子物性)
東京工業大学	理工学研究科	低温物理	奥田雄一	奥田雄一	奥田雄一(低温物理)
兵庫県立大学	工学研究科	金属物理	菅誠一郎	菅誠一郎	菅誠一郎(物性理論)

大阪大学	理学研究科	新奇量子現象	田島節子	田島節子	田島節子(超伝導, 光物性)
大阪大学	基礎工学研究科	物性理論	三宅和正	三宅和正	三宅和正(物性理論) 河野 浩(物性理論) 渡辺真仁(物性理論) 鶴田篤史(物性理論) 伏屋雄紀(物性理論) 藤本行延(物性理論)
東京大学	理学部物理	物性理論	小形正男	小形正男	小形正男(物性理論) 松浦弘泰(物性理論)
東京大学	理学系研究科	光電子分光	藤森 淳	藤森 淳	藤森 淳(光電子分光)
大阪府立大学	理学系研究科	物性理論	田中 智	田中 智	田中 智(物性理論)
東京大学	物性研究所	生体膜物性	野口博司	野口博司	野口博司(生体膜物性) 好村滋行(生体膜物性) 芝 隼人(生体膜物性)

物性委員名簿（2011(H23)年2月現在）

奥田浩司	北 孝文	野村一成	村山茂幸	竹ヶ原克彦	佐藤和弘	鈴木壯吉
前川禎通	森 道康	野尻浩之	小林典男	寺内正己	高橋 隆	倉本義夫
谷垣勝己	熊代良太郎	青木晴善	岩佐和晃	小野寺秀也	山口邦彦	田沼慶忠
五十嵐潤一	谷口伸彦	宮崎州正	柳澤 孝	柏谷 聡	門野良典	瀬戸秀紀
村上洋一	河野公俊	矢嶋 徹	近藤一史	片野 進	佐宗哲郎	小田垣孝
東崎健一	太田幸則	小堀 洋	家 泰弘	小森文夫	末元 徹	渡部俊太郎
柿崎明人	加藤礼三	嶽山正二郎	金道浩一	上田和夫	高田康民	柴山充弘
野口健司	吉岡大二郎	宮下精二	齊藤圭司	小形正男	藤森 淳	土井正男
金田保則	安藤恒也	江間健司	奥田雄一	古賀昌久	斎藤 晋	田中秀数
西田信彦	西森秀稔	藤澤利正	宗片比呂夫	村上修一	吉野淳二	小林功佳
松川 宏	秋光 純	高橋利宏	真野博史	齋藤幸夫	佐々田博之	関根智幸
杉本秀彦	若林淳一	豊田 正	増淵伸一	矢口 宏	小野嘉之	高木祥示
箕輪達哉	高橋博樹	久保康則	中原明生	円谷和雄	鹿児島誠一	勝藤拓郎
石井廣義	坂本浩一	佐藤英行	君嶋義英	田中正俊	高橋正雄	大野義章
家富 洋	後藤輝孝	土屋良海	原田修治	合田正毅	柿沼藤雄	樋口雅彦
石川義和	福原 忠	碓 寛	海老原孝雄	和田信雄	佐藤憲昭	上羽牧夫
鈴村順三	平島 大	佐藤正俊	小林義明	伊藤正行	井上順一郎	田仲由喜夫
中村新男	水貝俊治	佐野和博	川上則雄	池田隆介	小貫 明	澤田安樹
武末真二	前川 覚	早川尚男	遠山貴巳	西本明弘	村田惠三	吉野治一
畑 徹	石川修六	中山正昭	寺井 章	坪田 誠	小栗 章	橋本秀樹
鐘本勝一	大貫惇睦	杉山清寛	田島節子	野末泰夫	川村 光	赤井久純
吉田 博	三宅和正	北岡良雄	芦田昌明	白井光雲	菅 滋正	笠井秀明
中西 寛	内藤裕義	石原 一	堀中博道	石田武和	秋田成司	平井義彦
藤村紀文	森 茂生	田口幸広	泉 勝俊	河村裕一	溝口幸司	細越裕子
田中 智	豊田紘一	橋爪邦夫	吉野太郎	播磨尚朝	難波孝夫	藤 秀樹
太田 仁	高橋慶紀	小原孝夫	菅誠一郎	坂井 徹	稲見俊哉	平井國友
木下豊彦	鈴木基寛	高田昌樹	櫻井吉晴	秋重幸邦	竹内 潤	小野興太郎
安藤由和	原田 勲	大嶋孝吉	藤井佳子	星野公三	宇田川眞行	浴野稔一
畠中憲之	戸田昭彦	小口多美夫	高畠敏郎	鈴木孝至	蔦岡孝則	嶋村修二
繁岡 透	小山晋之	本田 亮	礪田 誠	神森達雄	田中寿郎	松村政博
宮川賢治	小隈龍一郎	橋本侑三	中西 秀	吉森 明	美藤正樹	真下 茂
廣井政彦	二木治雄	矢ヶ崎克馬				

グループへの新規加入について

登録するグループには、それぞれのグループに属する会員を登録してください。会費は、登録会員数 5 名まで、年間 500 円、5 名を超えるごとに 500 円ずつ加算されます。また、物性グループで行う選挙に投票権を持つ物性委員会の委員も下記のように登録会員数 10 人（端数は切り上げ）につき 1 人の割合で出させていただきます。

グループの更新は 3 年に一度行われます。現在は平成 23 年 4 月から 26 年 3 月までの期間の 1 年目に当たっています。入会は随時受付ですが、入会時期により会費が異なります。

平成 23 年 4 月から平成 24 年 3 月までに入会のグループは 3 年間の会費を納入してください。なお、2010 年 9 月の拡大物性委員会の決定に基づき、今回は本来の額の半額になっています。

会員数	1 年間の会費	2 年間の会費	3 年間の会費	委員数
1～5 人	500 円	1,000 円	1,500 円	1 名
6～10 人	1,000 円	2,000 円	3,000 円	1 名
11～15 人	1,500 円	3,000 円	4,500 円	2 名
16～20 人	2,000 円	4,000 円	6,000 円	2 名
21～25 人	2,500 円	5,000 円	7,500 円	3 名

各グループは、登録委員の中から 1 人の世話人を決めてください。世話人は以下の方法で登録してください。

名簿情報新規登録・更新方法

1. 平成 23 年 4 月から新規登録となり、平成 23 年度から 3 年度分の会費をいただいております。振込手数料を差し引いた金額を下記の口座へ納入してください。

銀行：みずほ銀行

支店：大岡山支店

種類：普通預金

口座名：物性グループ事務局（東京工業大学）

口座番号：2196804

2. 新規登録・更新、共に http://www.bussei.phys.titech.ac.jp/touroku_renew.html の「登録フォーム」から名簿情報を登録してください。

不明な点は下記の連絡先をお願いいたします。

連絡先：〒152-8551

東京都目黒区大岡山 2-12-1

東京工業大学大学院理工学研究科物性物理学専攻 西森研究室

email: bussei-jim@phys.titech.ac.jp

手続きは、名簿の登録と会費の納入が事務局で受理されて完了します。

納入の確認が取れ次第、事務局から確認のメールを差し上げます。

物性グループ事務局

委員長 西田信彦（東工大 理）

事務局長 西森秀稔（東工大 理）

事務局員 大熊 哲（東工大 理）

古賀昌久（東工大 理）

連絡先

〒152-8551

東京都目黒区大岡山 2-12-1

東京工業大学大学院理工学研究科物性物理学専攻 西森研究室

email: bussei-jim@phys.titech.ac.jp